NIE実践報告

1．タイトル：新聞を読んで、目の不自由な方の思いを理解しよう

2．学校名

群馬県邑楽郡板倉町立北小学校

3．実践者名（代表者名）

小林　浩子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　12人

6．単元（本時の学習課題）名

内容項目2－(2)「思いやり」「親切」

7．目標（狙い）

目の不自由な方の思いを想像することで、目の不自由な方を理解しようとする心情を育てる。(道徳的な心情)

8．評価の視点

目の不自由な方の思いを想像することで、目の不自由な方を理解しようとする心情を養えたか。
(評価方法:表情・発言)

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞記事から、目の不自由な方の思いを想像する。　1時間(本時)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)駅構内のアナウンスや写真から、点字ブロックの存在に気づく。
(2)新聞記事の見出しや写真をもとに、読み取れたことを話し合う。
(3)駅前の写真を掲示し、記事と同じようなことが身近で起きていることを知る。
(4)目の不自由な方の思いを考える。
(5)考えをどう行動に結び付けたらよいか話し合う。
(6)記事の続きを読む。

〈留意点〉
・学級活動で事前に「ブラインドウォーク体験」を行っておくと、自分が目の不自由な人だったらという視点を持たせやすい。
・発言によって子どもたちから多様な価値観を引き出し、話し合いが深まるように発言の取り上げ方や返し方を工夫する。(三方向KR)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・目の不自由な方に会ったら、勇気をもって声をかけたい。
・目の不自由な方の気持ちをもっと知りたいと思った。
・目の不自由な方がもっと外に出ていけるような世の中にしたい。

12．成果と課題

新聞記事と同じことが実際に身近で行われていると知って、衝撃を受けていた子が多かった。新聞はたくさんのことを教えてくれる教材ではあるが、自分の生活に密着したことやものほど最良の教材はない。新聞を活用する際には、記事をきっかけとして学習が発展していけるよう工夫することが必要である。